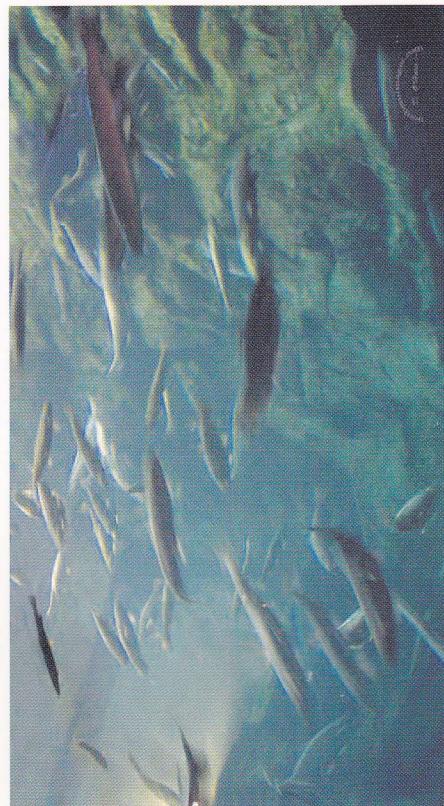


海の森づくり



海の森づくり推進協会
お問い合わせ

〒241-0801 神奈川県横浜市若葉台2-25-801
Tel : 090-4914-2345 Fax : 045-922-3448
e-mail : shujiro.fujino@mbe.nifty.com
URL : <http://www.kaichurinn.com>

海の森づくり推進協会

海の森づくりによせて

メッセージ

世界の奇跡と評された日本の高度経済成長ですが、その犠牲となつたのが、安価な土地造成や防災のための埋立・護岸対象やごみ捨て場となつた水圈環境です。その代表的なものが海の環境破壊とそれにつづく水産資源の枯渇です。その補償として、多くの行政処置がとられましたが、その効果がみられず、今や世界から日本の実力が問われておられます。かつて水産王国を自他とも認めた日本の水産は今や起き回生を迫られています。日本再生の条件は、高度経済成長期の負の遺産を正の遺産に転換し、次の世代に引き継ぐことです。そのためには、過去の経験を謙虚に学び、海からの警告を尊重した循環型社会の構築が必須です。

「海の森づくり推進協会」は、21世紀の循環型社会構築に向けて、コンブ等の海藻による『海の森づくり』を日本沿岸全域で行うことによって懸念されている『機械焼け』問題の解決に挑戦し、期待される効果(水産資源の増大、生物種の多様化、魚礁効果、水質浄化、二酸化炭素の固定化等)及び広水温域に耐えられる種の基礎研究を進め、研究成果を普及し、環境の保全を図ることを目的としております。

その具体的取組は、生態系を重視したコンブ等海藻による『海の森づくり』技術の普及、そこから得られる海藻等の利活用の研究及び普及を通して陸圏の生態系とその循環を重視した環境改善による地域経済の振興です。コンブ等海藻による海中林造成とその収穫物の利活用を車の両輪とし、国策としての『水産資源倍増計画』を提言しております。

平成16年11月20日
海の森づくり推進協会代表理事
松田恵明



次 目

I.	海の森づくりによせて	2
II.	海の現状	5
III.	地球温暖化の影響	7
IV.	水産資源の減少	9
V.	海の森づくり推進協会の設立	11
VI.	海の森づくり推進協会の活動	15
VII.	昆布パワー	17
VIII.	昆布料理レシピ	18
IX.	海藻押し葉	19
X.	参考文献	20
XI.	入会案内	21

I. 海の現状

水の惑星とよばれる地球は、表面の3分の2が海です。その環境悪化が急速に進んでいます。

特に沿岸水域は都市化による人口の集中、生活排水や農工業による産業排水による汚染、道路、護岸工事、海中道路などによる潮流変化や、森林の伐採により、磯焼け(藻場の喪失)などの現象もおき、サンゴの死の大規模な拡大し続けています。さらに、赤潮、プラスチック公害、養殖業の連作障害としての自家汚染(魚)、漁場老化(貝類)、タノカ一事故、などなど海の生態系を著しく破壊する要因は、後を断ちません。

海の環境を守り、生態系を保全し、水産資源を保護育成することは、ここでもたちに負の遺産を残さず、持続可能な循環型社会を構築するためには、取り組まなければならぬ私たちの課題なのです。



—日本の海—

四方を海に囲まれ、豊かな自然と豊富な水産資源に恵まれた日本には、周辺の沿岸域に立体的な海の森が存在します。水生物の命を支え、水中の有機物を分解し、栄養塩類や CO₂ を吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化に大きな役割を果たしています。しかし、近年埋め立てや護岸工事による自然海岸の減少、流れ込んでくる河川の水質汚染や水源となる山の環境悪化がこの豊かな生態系を壊しつつあります。生態学的要因の磯焼けに加え、磯荒れともよばれる人為的要因による磯焼け状態の海が増えています。



磯焼けの海底

水温や栄養塩類などの変化やウニなど
の食害により海藻類の群落が減少し海底
の岩石が石灰藻で覆われた状態(磯焼け)
が各地に起っています。裸山には鳥・獣
が住めないように海の砂漠には、魚介類
は住めません。

II. 地球温暖化の影響

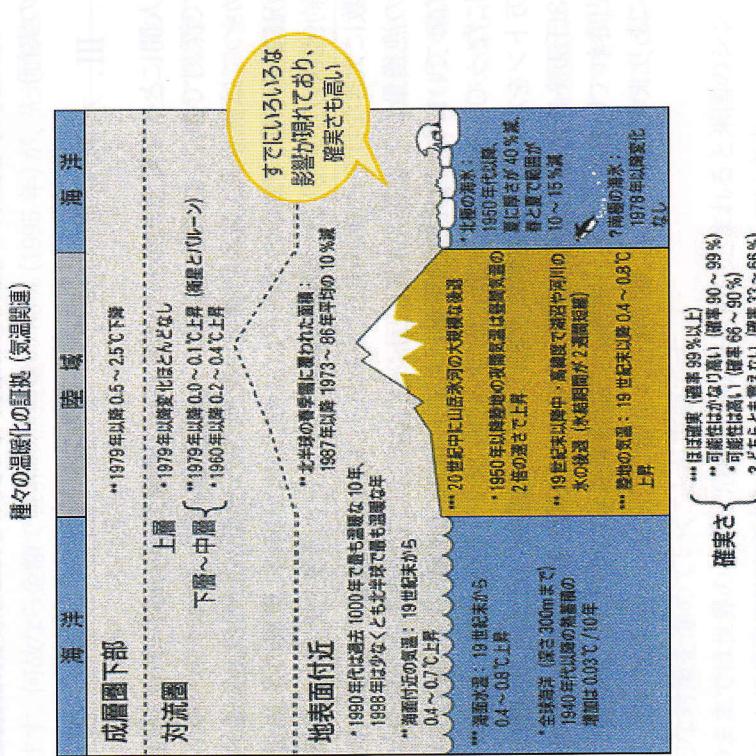
地球の大気にはCO₂など温室効果ガスが含まれているため、地球の平均気温が15°Cに保たれています。ところが、化石燃料の大量消費や森林伐採などにより大量のCO₂など温室効果ガスが大気中に排出され地球の温暖化が進んでいます。最近の研究により、大気・海洋大循環モデル(気候モデル)を使った温暖化の原因特定や将来の予測と、地球環境の観測データから、20世紀後半の気候変化は、主として人間活動に起因するものになりました。

—世界各地で異常気象が多発—

すでに各地で、温暖化に関連すると考えられるとされる異常気象(洪水、熱波、エルニーニョによる現象など)により、多くの被害が生じています。例えばアジアでは、すでに異常気象の頻度や強度が増大しており、今後温暖化が進むと、農業生産、水資源、沿岸低地、健康などへの影響が予測され、途上国では、現在も公害・環境問題に直面しており、温暖化や異常気象の増加は、人の生活や生産基盤に一層の大打撃を与える可能性があります。

温暖化の影響は氷河や海水、脆弱な生態系にまで現れ、世界各地で観測された例としては、中～高緯度における作物の生长期の長期化、動物生息域の極方向の高々度への移動、一部の植物・動物数の減少、樹木の開花、昆虫の出現、鳥の産卵時期の早期化が挙げられています。温暖化は、最近の15年間で+0.2°C／10年と、生態系が適応できる温度変化より速く、危険とみられる速さで進行しています。

* 1960年後期以降、積雪面積が約10%減少、北半球の中・高緯度地域の湖沼や河川で結氷する日数が約2週間短くなる、山岳氷河が後退する、北極の海水の厚さが約40%減少する、等の影響が現れています



—日本での温暖化の影響—

日本では、この100年間に1°C気温が上昇し、地球平均 0.6°Cを上回ります。オホーツク流氷の減少、植物開花時期の早まり、動植物の生息域移動などの兆候が観られます。

海水温の上昇によるサンゴ礁の白化現象も問題となっています。

エルニーニョ現象は温暖化の影響と考えられています。
森林ではブナ林の多くが消滅し、水圏においては、冷水性の海藻を食べるアワビ・サザエが減少し、ヤマメ・イワナなどの生息域が減少するといわれています。

温暖化防止のためにには、CO₂削減することが大切です。(京都議定書の実行)

III. 水産資源の減少

人間にとつて貴重なタンパク源である漁業資源の減少が世界規模で深刻です。

かつては無尽蔵と考えられていた世界の漁場が、今では危機的状況にあります。FAOのデータによれば、2001年に世界の水揚量は約9200万トンでした。気候の関係でペルーのカタクチイワシの個体数に大きなばらつきが出ることなどによって、1988年以降、世界の漁獲量が年換算で約66万トンずつ減少している事実が明らかになっています。世界の漁獲量は現在年間約 9000 万トンのレベルになっていますが、これにトラッシュフィッシュ 1600 万～4000 万トンを加えると、実際に水揚げされる海産物の量は年間1億2、3千万トンになります。海洋漁業の年間の持続的漁獲量(は推定1億トン)とされていることから、世界の主要漁業海域のすべてが衰退の危機にあります。

—漁獲高の裏にあるもの—

過去のほぼ半世紀を通じて、動物タンパクの需要拡大を満たす手段の一として、私たちは漁獲量の順調な伸びをできました。しかし、その時代は終わりました。高たんぱくな豊かな食生活が進み、1950年から1988年の間に、世界の漁獲量は1900万トンから8900万トン、約5倍に伸びています。

1人当たりの年間漁獲量は、1950年に8キログラムでしたが、ピークの1988年には17キログラムになっています。毎日の栄養摂取を、わずかの魚に依存して暮らしている貧しい消費者が、世界に10億人はおり、漁業資源の減少はこれらの人々の健康にも、大きい脅威を与えることになります。何故なら金額で世界の漁獲量の 83% (1995 年)が、先進国に輸出されているのが実態だからです。

市場化とトラッシュフィッシュ…

漁業の市場化が進み、世界の漁獲量のはほぼ4分の1にあたる 1600 万～4000 万トンの魚が、漁獲後に捨てられ海に廃棄されて死んでいます。魚が売り物にならなかったり、漁師が漁獲割当量以上を獲つてしまふからで、その結果、世界の海洋漁場の4分の3で、持続可能な漁獲量以上の魚が獲られていることになります。

—今ある資源の維持の為に—

乱獲と漁場汚染に加えて、最も生産力が高く、産卵や稚魚の育成にとつて大切な漁場を破壊し、消滅させてきた事実を振り返ってみれば、環境の変化に如何に柔軟で大きい更新力をもつ海の生物資源といえども、漁獲量はもうこれくらいが限界です。

今ある資源の維持の為に用意周到な管理をしなければ漁獲量はさらに減少することは必至です。もどもベーシックな解決すべき問題として水域環境への悪化に歯止めをかけ改善していくために、具体的な対策を進めいくことが重要です。

このままでは世界の漁業は危機的な状況に追い込まれると米国のシンクタンク世界資源研究所の日本人グループがまとめています。

－日本の漁業の衰退－

周囲を海に囲まれた島国の日本は、資源豊かな大陸棚に続く海岸線を持ち、全長は世界2位です。沿岸漁業を基盤にしながら、遠洋漁業を盛んにし、恵まれた海産資源を活かし、北から南まで地域の特徴ある魚食文化もはぐくんできました。

高度成長期を経て、船舶、装備、さらに物流など技術革新による発展の時代を迎えた、60年代の頃には日本は世界一の漁業大国となっていました。

しかし、国際化の波はこれまでの「公海漁業の自由」に、沿岸国の権利を認め、漁業規制の統一化が図られるいわゆる200海里水域規制の時代となり、日本の遠洋漁業は70年代後半には劇的な変化を強いられました。漁獲量の減少、入漁料の高騰、沿岸国への漁業協力・漁業合弁などに加え、石油ショックなどによる経費の高騰、輸入による魚価の低迷と日本の漁業の3重苦の時代に入り、現在でも続いています。

現在、わが国の漁獲量は、1990年(平成2年)1,035万トンから2000年(平成12年)639万トンと10年間に約48%漁獲量が減少しつつあります。

本来、海に囲まれ、豊かな自然と水産資源に恵まれた日本、漁民によつてその水域環境は守られてきました。見方を変えれば、日本でもあつたのですが、その漁民の数も戦後ピークを迎えた86万人から26万人にまで減少しています。環境問題が未来に向け深刻な影を投げかけている今、持続可能な循環型社会の視点からすすめる漁業は、環境保全、食料自給を安心と安全で保証するものとなるはずです。こうした漁業を構築するためには、生産する漁民だけではなく都市に暮らし消費する市民とともに当事者となる日本の海環境保全型漁業の仕組みや装置をつくる必要があります。

日本の漁業を見直し再構築の時がきています。

IV 海の森づくり推進協会の設立

起死回生を迫られるわが国水産業戦後、わが国の水産業は「沿岸から沖合へ、沖合から遠洋へ」というスローガンに沿って、飛躍的に伸び、日本は自他ともに認める「世界一の水産王国」になりました。1988年の漁獲量は1,200万トンを記録しましたが、その後、イワシの激減と漁場制限等によって2000年の漁獲量は638万トンまで減少し、沿岸漁業の漁獲量もついに殆ど沿岸の零細漁業に依存していました。1945年の漁獲量をはるかに下回る158万トンになってしまいました。漁民の数は、戦後ピークを迎えた1951年の86万人から26万人にまで減ってしまった。日本の漁業に起死回生が迫られています。

では、その策は日本にあるのだろうか？ その答えは「ある」のです。海の森づくり運動

1987年以来、改革開放政策の下で、中国の海面漁業が急速に伸び、今では中国は1,400万トンの漁獲をあげ、日本へも大量に輸出しています。これを支えているのは、大連から福建省におよぶ沿岸海域1,300kmに及ぶコシブ等海藻類養殖による人工海中林の存在です。現在の中国の海藻生産量は湿重量で600万トンを超えており、日本の海藻総生産量の約10倍です。これらの人工海中林が、海洋環境を改善し、魚介類の産卵場や稚鰐場となつたと考えられます。この膨大な海中林造成のきっかけは、1930年に北海道から導入されたマコシブの養殖です。私たちは、「この中国から逆に学ぶべきことはないだろうか？」と考え、1994年に鹿児島県東町漁協で、沖合水域における大規模海中林造成試験を行い、その可能性を確信しました。以後、全国に共鳴者を増やし、いまでは、全国各地で小規模ながらも実験が続いている。

2001年1月大日本水産会の業界懇談会で、「21世紀の課題」として「日本の沿岸域におけるコンブ海中林造成等による水産資源倍増

論」がテーマとなり、その後、第154回国会農林水産委員会（2002年6月6日）でも「コンープの森づくり」が取り上げられ、「海の森づくり推進協会（<http://www.kaichurinn.com/>）」、「沖縄ピースコースト」等の民間団体が人工海中林造成の普及活動を展開しています。さらに、超党派国會議員からなる「海の森づくり推進議員連盟」もできました。

水産資源倍増10ヵ年計画

私たちが提唱する日本沿岸域における水産資源倍増計画は、「海の森づくり」と「その生産物の利活用」を事業の両輪として、全国津々浦々に分布する漁協・漁村を中心とする「海・山・川と森と里と都市」を結ぶネットワーク活動によって水産資源を倍増しようとするもので、その骨子は次のとおりです。

コンープ種糸「100m運動」

これは、これまでの単一養殖から海藻等を含めた複合養殖に切り替えるための運動です。100mのコンープ種糸代は現在約2万円弱です。裏作として出荷後の空生簀や利⽤中の生簀・ロープ等を利用して鹿児島県の錦江湾以北であれば6ヶ月で約20トンのコンープ生産は可能です。また、魚類生簀面積と海藻養殖面積を1:1にし、全国で10万の生簀が参加し、アオサ等夏から秋にかけて成長する海藻と組み合わせ海藻の周年栽培を実施すれば、200万トン（現海藻総生産量の約3倍強）の海藻養殖生産が実現することになります。安全で安心できる食品を提供する養殖が求められている昨今、このような人工の藻場形成は10年間の目標として決して無理なものではありません。

大規模人工海中林・藻場の造成

全国に存在する沿岸地区漁業協同組合のうち、約500地区の共同漁業権水域の外縁に毎年1万トン生産用の浮沈式コンープ等の海中林造成維持すれば、年間500万トンのコンープ生産が可能となります。当初の5年間は、大規模海中林造成の環境影響評価等の研究や種苗生産施設等の建設などインフラ整備にかけ、後半の5年間に全国普及を図れ

ば、上述の種糸「100m運動」と大規模人工海中林造成による生産量は併せて700万トンとなり、その藻場効果の結果、日本沿岸の水産資源の倍増が期待されます。

生産物の利活用

コンープは、大型海藻であるため取り扱いが簡単で、飼用、食用、薬用、肥料、工業用原料等、利用法は多岐にわたります。養殖業者にとっては、アワビ、ウニ、サザエ、カワハギなど藻食性魚貝類の良質の餌となります。食用としては生食・食品加工用素材・機能性食品等として利用できます。薬用としてはヨード欠乏症や癌に効きます。肥料としてはイカ等の糖度を増したり、化学肥料を長く使った畑でたる野菜の硝酸態窒素を蛋白質に変える働きがあり、生ごみ処理用コンポストの分解細菌を増やす触媒としても使えます。また、工業用原料としてはアルギン酸等の食用以外に染料・潤滑油・化粧品等の添加剤に使える他、バイオマスエネルギー源にもなります。生産物の利活用が現金収入に結びつきだせば、その人工海中林造成事業は経済自立性を持ち、地域振興に繋がります。

計画の特徴

上述の計画は、これまでの藻場造成と違い、次のような特徴を有しています。
管理主体は漁民や漁協で、一定のサイクルをもつた仕事です。
1年を通して、漁民あるいは漁協が種を管理し、毎年沖出しし、収穫するという一連のサイクルを管理しなければなりません。この村落共同体としての意識は長期的に漁村における雇用の創出、漁民の収入増、漁村の活性化に繋がります。
環境浄化に繋がります。

コンープ等海藻類を使つた人工海中林は、水中の窒素・磷・炭酸ガス等を吸収し、酸素を出し、富栄養化や赤潮を防ぎ、青潮や磯焼けの弊害を少なくします。また、コンープは半年で収穫されるので、優先種となつて対象海域の生態系を壊すことはありません。ちなみに、日本から輸入さ

われたコンープが中国で養殖され始めて既に 70 年になりますが、コンープによる環境破壊の話は聞きません。天然の藻場造成の役割を補完します。私たち方が提唱している養殖技術を駆使した人工の海中林造成は、人 工的なコントロールが難しい天然の藻場を補完するものであり、多年生の海藻・草類を主体とする天然の藻場造成と共生できる性格のものです。

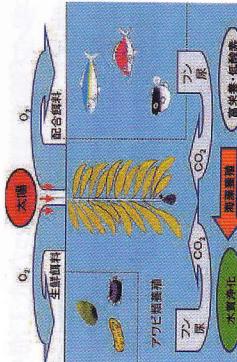
V 海の森づくり推進協会活動

私たち方が提唱する日本沿岸域における水産資源倍増計画は、「海の森づくり」と「その生産物の利活用」を事業の両輪として、全国津々浦々に分布する漁協・漁民・漁村を中心とする「海・山・川と森と里と都市」を結ぶネットワーク活動によって水産資源を倍増しようとするものです。北海道の北方系のコンープが中国の亜熱帯地方である福建省の海でも育っています。日本の奄美大島や沖縄でコンープが育てば日本全国で育てることが出来るはずです。そこで、2002 年から台風や暴風雨に耐えられる浮沈式養殖技術の普及を目指し、藻場・海中林造成技術者養成講座を開催し始めました。

船上での講習会風景

また、沖縄原産コンープ(アントクメ)の種苗生産も 2003 年から開始しました。そして魚類生簀面積と海藻養殖面積を 1:1 にし、自家汚染を防ごうとコンープとの複合養殖を呼びかけています。

環境保全型複合エコ養殖概念図(明脇秀策先生作成)



14

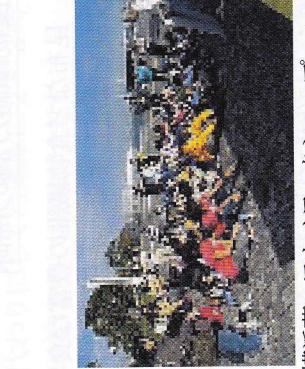
支部の活動

宇和島支部では

「宇和海に緑をひろげ環境を守る会」は活動の第 1 歩として青森県からコンープ種糸 1000mを取り寄せ、宇和海沿岸の漁協や団体に配布しました。2004 年も赤潮が発生しましたが、コンープ養殖に取り組んだところはセーフとのうわさが流れました。



神奈川支部では海の森づくりを多くの市民参加ですすめ、①産卵場としての機能②幼稚仔魚の保育場としての機能③餌場としての機能④環境保全等の機能を生かし、豊かな海、美しい海を取り戻し、食糧としての水産資源を増やしましょうと海の緑化運動に取り組みました。



横浜夢・ワカメワークショップ



三浦の取扱祭

2004 年には沖縄支部が立ち上りました。

昆布ノパワー

ミネラルがいっぱい

海藻は、カロリーが低く、ミネラルが豊富です。ミネラルは体調を整えておくために欠かせません。私たちの体内に流れる血液・リンパ液は、海水の成分組織と似ているといわれています。昆布など海藻に含まれるミネラルは、海の中で育つ際たくさんミネラルを吸収します。

ミネラル・・・カリウム・カルシウム・マグネシウム・鉄・ナトリウムなどなど

例えば カリウムは、筋肉の収縮や心臓機能の調整を行う。カルシウムは、歯や骨を作る他、血液をアルカリ性に保つて酵素を働きやすくします。

食物繊維力腸の掃除

昆布など食物繊維の豊富な食物は、腸の中で便の「かさ」を増す役割をはたします。それによって腸壁が刺激され腸運動が促進され便秘予防になります。

近年発見！話題のフコイダン・パワーとは

海藻に含まれる「フコイダン」という糖の一種が、近年生活習慣病・アレルギー性症状に対しても有効であることがわかつてきました。人間の腸内には、フコイダンを消化分解する細菌がないため、植物繊維と同様の役割もはたします。また、ガン細胞の消滅を助ける物質としても今注目を集めています。

食べて美味しいだけでなく、ダイエットや胃腸の働きをよくしたい方に最適です。

料理レシピ

だしを取った後の昆布の有効利用法

だしを取った後の昆布の有効利用法

個煮 (材料)だしを取ったコンブ 10枚 干しあじ 3枚酢大さじ1と1/2 酒・みりん各大さじ1 醤油 1/2カップ 煎りごま少々
(作り方)風干したコンブを水に戻し1cm幅位に切って酢をからめて20分程置きます。なべに戻した椎茸と昆布と調味料を入れ昆布の漬け汁をかかる位まで注いで火にかけます。煮立ったら弱火で20分位煮て器に盛りごまをふります。

冷蔵庫漬け

(材料)だしをとった昆布1枚 きゅうり 2本生姜の薄切り6・7枚 塩少々
(作り方)湿った昆布を斜めに置き、塩もみしたきうりを2本並べてのせ、生姜の薄切りをまわりに置いてラップで包みます。バターケースなど重し代わりにして冷蔵庫に2~3時間置き、きうりは乱切り昆布生姜はせん切りにします。

コンブ利用・エトセトラ

昆布入り春巻き

春巻きの材料に豚肉と昆布はいかがですか。
きざみ昆布入り五目ピーフン
家族に人気のメニュー、「炒めビーフン」にきざみ昆布を加えヘルシー仕上げ。

海藻押し葉作ってみませんか？

① 採取 ② 保存 ③ 塩抜き



④ 台紙にのせる ⑤ 水切り ⑥ 吸取紙にはさむ



⑦ 乾燥 ⑧ 完成 ⑨ 加工と保存



栃木県立博物館 「海の森からのおメッセージ」より

参考文献

- 書籍名『コンブは地球を救う』著者 境 一郎 出版社 水産社
 書籍名『一個52万円のアビ文化』著者 境 一郎 出版社 成山堂
 書籍名『磯純ナの海を救う』著者 境 一郎 出版社 農文協
 書籍名『魚が減じる』著者 境 一郎 出版社 農文
 書籍名『新しい生態学』著者 高橋 正征 発行所 ビオニティ
 書籍名『2100年未来の街への旅』
 編・著 サステナブルデザイン研究会 発行所 学習研究社
 書籍名『よくわかる海洋深層水』著者 吉田 秀樹監修 高橋 正征
 発行所コスマトワークス
 書籍名『海にねむる資源海洋深層水』著者 高橋正征発行所あすなろ書房
 書籍名『21世紀の海藻資源』編著 大野 正夫 発行所 緑書房
 書籍名『身体に効く海洋深層水パワー』著者大野正夫中島宏上野助貴
 発行所 角川春樹事務所
 書籍名『ハイオテクノロジー』編著山内 文男 発行所 光琳
 書籍名『人類は80年で滅亡する』著者 西澤 潤一 上野 助
 発行所 東洋経済新報社
 書籍名『脅威の水 ロックウォーター』編著ウォーターデザイン研究所
 発行所 技術出版
 書籍名『光合成細菌で環境保全』著者小林 達治発行所農山漁村文化協会
 書籍名『地球温暖化と海』著者 野崎 義行発行所 東京大学出版社
 書籍名『海と環境』編著 日本海洋学界 発行所 講談社
 書籍名『海藻利用の科学』著者山田信夫 発行所 成山堂書店
 書籍名『磯焼けを海中林へ』著者谷口和也 発行所 豊華房
 書籍名『21世紀の地球環境』編著者高橋浩一朗 岡本和人 発行 日本放送協会
 書籍名『CO2削減戦略』編著(地球環境産業技術研究機構 発行日刊工業新聞社
 書籍名『地球白書』編著レスター・プラウン 発行所 家の光協会
 書籍名『おさかな通信Gyo！』編集ウーマンズフォーラム魚

会員募集のご案内

特定非営利活動法人 海の森づくり推進協会は生態系を重視したコンープ等海藻による「海の森づくり」技術の普及により、懸念されている『機械け』の弊害を防ぎ、沿岸域の水質浄化と水産資源増殖を図るとともに、そこから得られる海藻等の利活用の研究及び普及によって陸圏の生態系とその循環を重視した環境改善による社会貢献を推進することを目的としています。さらに、コンープ等の海藻による二酸化炭素吸収力により地球温暖化を防止しようと活動を進めています。 次世代の子どもたちに青い地球をのこすために！

賛助会員の種類と年会費

会員の種類	入会金	年会費	ニュース イベント案内
個人賛助会員	1,000円	1,000円	○
団体賛助会員	1,000円	10,000円	○

美味しいエコアワビやホタテなどを産地価格にてご案内いたします。

※ 本会は正会員によって運営されています。正会員へのご入会希望は別途事務局にお問い合わせください。(年会費は3,000円)

入会の申し込み方法

申込書にお名前、住所等をご記入の上、入会金・年会費を添えて、事務局にお渡し下さい。また、郵便振替でも入会できます。
郵便振替：00200-1-65683 海の森づくり推進協会

お問い合わせ

海の森づくり推進協会

〒241-0801神奈川県横浜市若葉区2-25-801
Tel : 090-4914-2345 Fax : 045-922-3448
e-mail : shujiro.fujino@mbe.nifty.com
URL : <http://www.kaichurinn.com>

最期に、終始、本会の旗手であり、実践者であり、エネルギーであった『境一郎』先生のことに関する言及させていただきます。境先生(75歳)は、11月13日に脳梗塞で倒れ、その後昏睡状態が続き、10日後の23日に沖縄の地で家族に見守られながら安らかに永眠されました。それは、「わが人生に悔い無し」の大往生でした。先生はかつて農文協から『魚が減る』を出版されたように、日本の沿岸漁業・養殖のあり方に大きな疑問をもつておりました。平成2年北海道小樽水産高校を定年退職後、日本の漁村の現状を憂い、第2の人生を漁村の活性化に捧げてきました。その具体的な実践が、この「海の森づくり推進運動」です。「つかなく」と考える行政・学会・業界からの迫害にもめげず特論を長年主張・実践してきました。沖縄・奄美での実践はまさに命がけの実験でした。この境先生の信条と実践に共感した人たちが集まってこの『海の森づくり推進協会』が作られ、現在に至っています。皆様方の暖かいご支援・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

松田 恵明

2004年12月1日
海の森づくり
編集 田中 真樹子 新井 千恵子
監修 松田 恵明
発行 海の森づくり推進協会
〒360-0825 埼玉県熊谷市月見町1-104
Tel 048-525-6103